設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 5年 6月10日
(121号)

中之島ニュース

［事務局］
〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
古田修平

五月度特別講義

「生まれてきてよかった」

向野 幾世 先生

■心の値打ちの高い人に

私がいつも思っているのは「逃げたらあかん」という言葉です。人間はいつも逃げますよね。「辛いことが多いのは、感謝を知らないからだ。苦しいことが多いのは、自分に甘えがあるからだ。悲しいことが多いのは、自分のことしかわからないからだ。心配することが多いのは、今を懸命に生きてないからだ」、この言葉を石川洋先生からいただいたのは、まだ四十代初め頃でしたが、それからずっと心に思っています。それでもいつも逃げようとする自分が他にいるんですよね。今日も実は急に足が痛みだし、歩けなくなったのですが、「逃げたらあかん」と思ってやってきました。

森信三先生の言葉で一番好きな言葉は、「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に」です。この言葉を思うとき、自分が思い起こすのは私の父親です。父との出逢いは逃れようがない。私の父は、重度の脳性麻痺でした。足も手も不自由、足は尖足位です。尖足位とは足の先だけで歩きます。それで歩くと全身揺れるし、当然すぐひっくり返るという足だったのです。私の家はちょっと大きい家でした。それで玄関に人が訪ねて来ると、父親は自分のいる場所から玄関まで這い出ていきました。当然鼻息が荒くなり玄関に出ていくと、玄関のお客様が「シッシッ、お前は引っ込んでいろ。主を呼べ」と言われるのですが、その這い出てきた男が、我が家の主だったんです。私はそれを耳にして「お父ちゃん悔しくないの」と父に尋ねると、父は「ちっとも悔しくない。玄関に来た人がどんなに立派な服装をして立派な肩書きを持っていようと、心の値打ちとは関係ない。大きくなったときに、心の値打ちの高い人になるように」と教えられました。

■人間教育の道へ

そんな父親からは知らず知らず一つの使命を感じ取っていたようです。使命とはいのちの使い方。いつしか私は障害を持った人に関わった仕事をして生きていこう、そう心に思っていました。

大学を出て非行少年を扱う武蔵野学園で勤めているとき、毎日手紙をくれる男性に結婚を申し込まれました。そうして私の故郷の四国の家に挨拶に行くというときに、私は相手の人に父が障害者であることを告げていないことに気づきました。家に着いて玄関に手をかけたとき、案の定父が這い出てきました。けれどもその人は「シッシッ」とは言わなかった。あとで聞くと「驚いたけれど、とても目の綺麗な人だったので、この人は立派な人だと思えた」と言ってくれました。夫は亡くなりましたが、私が夫に感謝する一番最初の言葉がそれです。

そして私達は結婚しました。人間とは不思議です。自分の心に、愛が満ち溢れると心の渇きは癒せます。子供たちからも、溢れるような愛でないと人に接することはできないよ、と教わった。満ち足りていないときにはもっとくださいと、自分の渇きを癒そうとする。自分が満たされたときに、人のケアもでき、初めて人間教育はできるのだと、子どもたちが教えてくれました。

■ぼくが生まれてごめんなさい

その後奈良の東大寺整肢園で働き始めて、自分の子供も生まれました。教え子となるやっちゃんと私の息子は同じ小学一年生。担任となったわが息子と同じ年の子どもたちは重度障害児八人でした。当時は母子入学、ひとりで食事も移動もできない子に母親も一緒に十二年間学校に行くのです。社会もまだそういう障害者には冷たく、当時の新聞見出しに、アンケート結果をふまえ「重度心身障害児は死んだ方が幸せか」などと出てお母さんたちは憤りました。

子どもたちを教育しても卒業後の受け皿のないのは空しい。そこで障害児たちの自立支援の場「たんぽぽの家」を立ち上げました。そしてチャリティイベント「わたぼうしコンサート」を始め、今年で五十年になります。

担任した重度障害のやっちゃんは「お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい」という詩を書きました。この詩の前半が書けたとき、お母さんにお知らせすると、今度はお母さんが「私の息子よ許してね」と詩を書かれた。またそれを受け、やっちゃんは、わたぼうしコンサートでの発表を目指して詩の後半を書き上げました。「やさしさこそが大切で／悲しさこそが美しい」と。そして、立派にこの詩を発表しました。それから二月もしないうちにやっちゃんは亡くなりました。十五歳でした。心の豊かな子でした。

本当に世の中にはどうしようもできないことがいっぱいあります。それでもまず自分自身の心の中にろうそくの火を一本お持ちなさい。一つだけでは役に立たないかも知れなくても、ここにいらっしゃるお一人ずつがろうそくに火を灯したなら、光ある場になる。まず自分の心のろうそくに火をつけること。そうして自分自身から変わっていくことができれば、素晴らしいことではないでしょうか。

（抄録　中川千都子）

グループ討議　五月

◆　向野幾世　先生　5月13日（土）

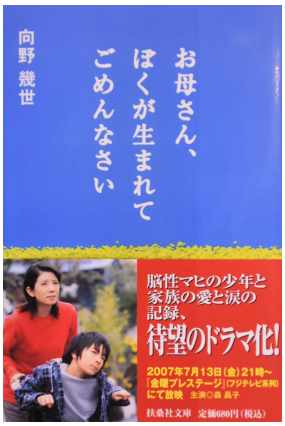
Aグループ
・心の値打ち。
・愛があふれる力。
・トイレにひとりで行きたい。
・逃げたらあかん。

Bグループ
・逃げたらあかん。
・自分の愛があふれたときに人間教育ができる。
・心のろうそく。

Cグループ
・逃げたらあかん。
・心の値打ちの高い人になる。
・自分の心にろうそくをつける。
・体中が耳である。
・使命＝命の使い方。

Dグループ
・自分の心が愛であれていないと愛は与えられない。
・逃げたらあかん。
・やっちゃんやその他の詩。

Eグループ（リモート）
・逃げたらあかん。
・Mさんへのレクイエム。
・まず、一人ひとりの心の中にろうそくの灯をともすことが大切。



寺田先生に導かれて　近藤宏枝

「神渡先生のご遺徳」

五月一日に神渡良平先生がご逝去されたことを、中川千都子代表からお伝え頂きました。

ここに神渡先生を偲んで、平成二十九年五月に拝聴したご講演から「こだま通信」に書き記した当時の一文を紹介致します。

「賛美歌「アメイジング・グレイス」は以前から様々な場面で聴く機会があり、知っていた曲ではありましたが、深い物語が隠されていた事は知りませんでした。今回、神渡良平先生のご著書『アメイジング・グレイス・魂の夜明け』からのご講話で、後に奴隷制度廃止運動に関わる、イギリスの牧師ジョン・ニュートンが、今から二五〇年程前に作詞した事を話されました。白人の奴隷商人は、黒人の部族長等に衣食及びの武器の交換として、黒人奴隷を差し出させるという仕組みを作りました。そのためニュートン牧師は若い頃、その奴隷貿易商人を生業としていましたが、自分の乗った船が難破しかけ、奇跡的に助かった事がきっかけで、生活を改め牧師となったのです。かつての悲惨な経験があったからこそ、世界中の人々の心に届く賛美歌として、歌い継がれているのだと思いました。」

私は神渡先生がご自身の命を削られ「在野の人々」に光を当てて、その人生を多くの著書に綴られ、後世に残されたことに深く感謝致しました。

ここで思いますのは、森信三先生が生涯をかけて、あくまで野の一思想家一実践人として終始一貫されたことです。そして縁あるあと無名の真人の将来には、出来る限りの援助を惜しまれませんでした。私達も縁ある人達と共に、一歩一歩進んでいきたいと思います。

第12期登壇講師

本年九月から始まる、第12期の講師陣が決定しました！

ここに講師の方々を紹介させて頂きます。

※敬称略

○元・航空自衛隊空将　織田　邦男
○修養団伊勢青少年研修センター　所長　武田　数宏
○薩摩川内市下甑手打診療所　所長　齋藤　学
○志ネットワーク　代表　上甲　晃
○新宮運送　代表取締役　木南　一志
○臨済宗円覚寺派管長　横田南嶺
○実業家、著述家、歌人　執行　草舟
○作家　石川真理子
○行動科学研究所　所長　岩田　洋治
○元新島小学校校長　市川　英俊
○ことほぎ代表　白駒妃登美
○元リッツ・カールトン日本支社長　高野　登

登壇される日程やご経歴などは、別途のパンフレットをご参照ください。

来期も豪華講師陣となりました。

また、宿泊研修も予定しています。

ご期待ください！

現塾生の方は継続を！

そして、是非、知人をお誘いください。

卒塾文集原稿募集について

卒塾式に卒塾文集を発刊しています。
この一年間に学んできたことや感想などをまとめて頂き、ご提出をお願いします。
塾生全員分を掲載いたします。
◎文字数　600～800字　厳守
◎提出先　メールにて「編集部宛」
ベタ打ち・添付ファイルどちらでも可！
メール以外の方は、原稿を編集部宛郵送等にて！
◎締切日　令和５年６月３０日（厳守）

編集部　2012nakanoshima@gmail.com
〒596-0828 岸和田市門前町2-7-28　西村俊幸　宛

新規塾生感想　上田賀代

第11期生として初めて参加させていただきました。

入ってみて一番に思ったことは、受講生の皆さんがとても素敵だということです。

保育士として十年ほど勤めましたが、結婚してからは専業主婦として子育てと介護に追われる毎日で、社会とのつながりを持てずに過ごしてきたので社会人として私はどうなんだろう？大丈夫？ととても緊張して参加した私でした。でもそんな私にも気軽に声をかけていただき、楽しく参加できる雰囲気を作ってくださいました。皆さん意識して作っているのではなく自然にされているので、初参加の私はずっと参加しているのではと勘違いするくらいです。

いろいろな職業の方がいて、年齢も幅広く、きっと社会的地位の高い方もおられると思いますが、学びたいという立場は皆同じでどの方も自分のできることを自分の立ち位置でさせていただくという姿勢でされていることが素晴らしいなと感じました。

講師の先生方も素晴らしく、毎回毎回感動と自分に必要なことを気づかせてもらっています。人として今必要なことを伝えて下さるんです。一人の人間として私に何ができるのか、何をさせていただけるのか、その事を学び続けていきたいと思っています。

子育てと介護が一段落し、やっと自分の時間が自由に使えるようになった今このような場で学ばせていただけることがとてもうれしいです。ありがとうございます。

《人間学塾・中之島》次月日程

◆日時
7月8日（土）13時～

◆場所
大阪城ホールコンベンションホール
◎開催場所にご注意ください！

◆講師　福永道子　先生
元あゆみ保育園　園長

◆テーマ
「小さな歩み　大きな喜び」

※今期最後の講座です。是非、ご参加ください。

～在りし日の森信三先生と一緒に～

編集後記

いよいよあとわずかとなった第十一期。グループ討議も再開され、徐々にコロナ禍前に戻りつつあります。

逃げたらあかん！向野先生のお言葉が響きます。講演当日も足の調子が良くなかった先生。その後、ご入院されましたが、すでにご退院されています。

今月は、上田賀代様に原稿をお願いしたところ、ご快諾いただきました。本当にありがとうございました。

さて、読書感想文集の発刊を終え、すぐに卒塾文集となりました。皆様のご提出の方、重ねてお願いいたします。

編集長の突然の指名に原稿も何卒、よろしくお願いいたします。

次は、あなたの番です！

編集長　西村俊幸

投稿大募集

卒塾文集もこちらへ！

人間学塾・中之島
編集部メールアドレス
2012nakanoshima@gmail.com

連絡先
TEL　090-6322-2590
〒596-0828
岸和田市門前町2-7-28
編集長　西村俊幸

無断掲載・引用はご遠慮ください。